

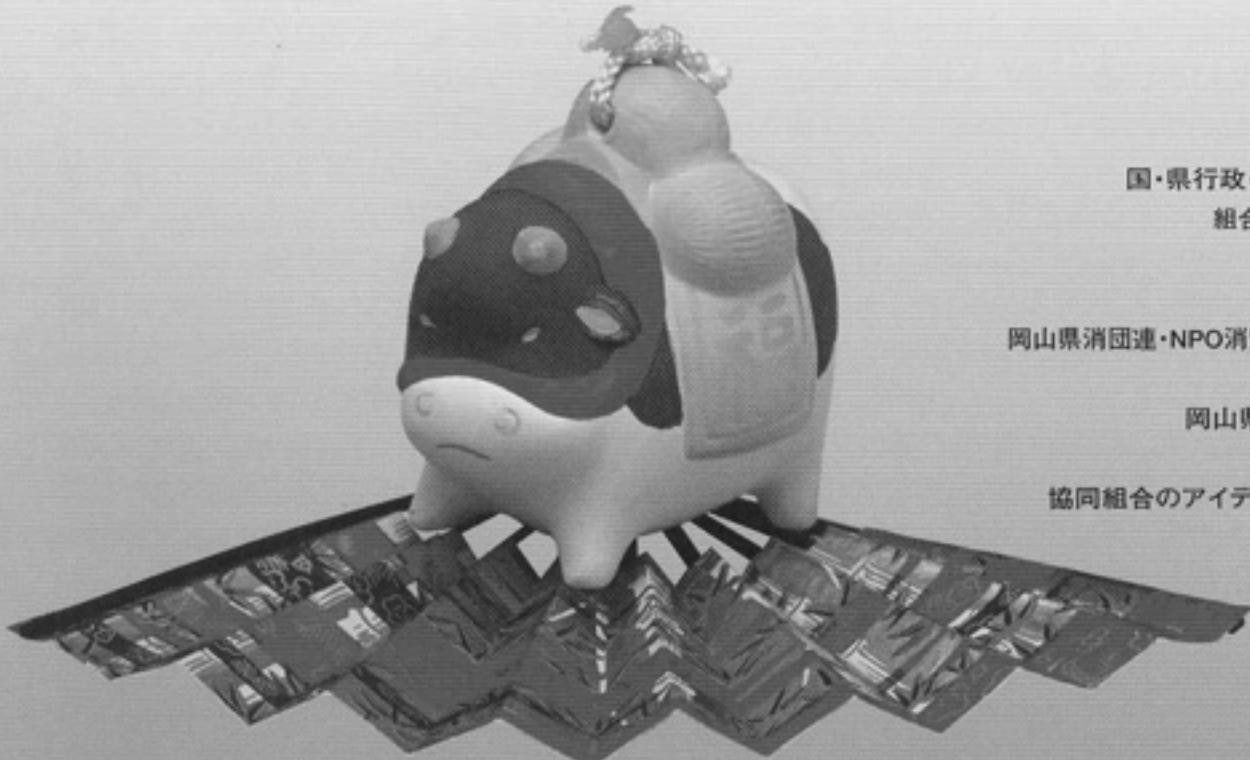
岡山県

せいきょうう連 会報



鬼ノ城(総社市)

新年あけまして
おめでとうございます



CONTENTS

新年メッセージ

会長理事	1
岡山県知事	2
各界の方々	3~8
国・県行政・議員・協同組合と情報交換	9~10
組合員・職員・役員が交流し、学ぶ	11~12
コープぼうさい塾	13
岡山県への「要望書」	14
岡山県消団連・NPO消費者ネットおかやまの取り組み	15~16
会員生協トピックス	17~18
岡山県生活協同組合連合会紹介	19
会員生協紹介	20~22
協同組合のアイデンティティに関するICA声明	23

今、協同組合の「価値」を 認識新たに



岡山県生活協同組合連合会
会長理事
安 場 靖

新年あけましておめでとうございます。
会員生協・組合員のみなさまには、清々しく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、食品事故、偽装が相次ぎ、消費者への信頼が損なわれ、生協にとっても厳しい反省との確な対処が求められることとなりました。

また、「生協制度」が、発足後60年を経て抜本改正され、新しいしくみと基準のもとにガバナンス強化をかけてスタートした年でもありました。

岡山県の行政・議会・議員をはじめ、協同組合、消費者団体、福祉・環境・平和等、各分野に携わっているみなさまには、励ましやご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、アメリカを震源とする「金融危機」は、世界の市場経済に多大な損失と混乱を招き、国内でも家計や雇用、企業経営を直撃し、格差と貧困を増幅させて越年しました。

不況の「嵐」は、産業を衰退させ、その影響は、一般消費者、社会的弱者のくらしに覆いかぶさって、先行きの見えない厳しい年明けとなっています。

今、少子高齢化の進むなかで、社会保障の充実が求められ、雇用とくらしのセーフティネットの中身が問われています。一方で、国・自治体の財政破綻を食い止めることも容易ならざる事態です。

この頃は、「税金」の無駄づかいが指摘されながら消費増税の動きが報道されるたびに、心が痛みます。

社会保障の充実のために導入された消費税はどこまでその目的が果たされたか、1997年の消費税率引上げで消費が冷え込み、景気低迷を誘引した苦い教訓は生かされているか、「税の公平性」の論議で「応能負担の原則」は「原則」でなくなってしまったのか、疑問がよぎります。

まずは、過去の「税・財政実績」をきちんと総括し、現実の家計消費や企業経営に与える影響をしっかり吟味して、甲論乙駁をもって得られる“民意”を政治選択のテーブルに乗せてほしいと私は思います。

詐欺・偽装事件など消費者のくらしの安全・安心を脅かす事例は後を絶ちませんが、今、国会で審議されようとしている国・地方の消費者行政の充実と一元化には、多くの国民が期待を寄せています。

岡山県生協連合会も参加している“発芽”間もない「NPO法人消費者ネットおかやま」にも地域消費者利益を守る受け皿としての役割が期待されます。

いささか悲観的な「あいさつ」となってしまいましたが、岡山県生協連合会は、諸般の厳しい情勢に鑑み、「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」(裏表紙掲載)に謳われている「新しい協同組合原則」と協同組合の「価値」を実践すべく、認識を新たに、活動をすすめていく年にしたいと思います。

変わらぬご支援ご協力を願いいたしまとともに、みなさまのご健勝をお祈り申し上げ新年のごあいさつといたします。

ごあいさつ

「暮らしやすさ日本一」の岡山を目指して



岡山県知事
石井 正弘

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員組合及び組合員の皆様にはよき初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年10月には、会員組合であります岡山県学校生活協同組合が、消費生活協同組合法制定60周年記念消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰を受賞されましたこと、重ねてお慶び申し上げます。

さて、私は県民の皆様方のご支援を賜り、引き続き県政を担当させていただくことになりました。その責任の重さに身の引き締まる思いで新年を迎え、「暮らしやすさ日本一」の岡山の実現に向けて、全力を尽くしてまいりたいと決意を新たにしているところです。

岡山県では昨年、瀬戸大橋と岡山空港とともに20周年の節目を迎えるました。瀬戸大橋では、香川県と共同で橋上イベントを開催し、全国から1万人を超える方々にご参加いただきました。岡山空港からは、中国・四川大地震の被災地に、県内NGOを通じて初めて直接救援物資を輸送し、「岡山発の国際貢献活動」を積極的に展開いたしました。また、毎月第2金曜日を「犯罪ゼロの日」と定め、地域を挙げての集中的な広報活動などに取り組みました。さらに、「おかやま子

育て応援宣言企業」も着実に増え、仕事と育児が両立できる環境の整備や、地域での子育て支援など協働の取り組みも進みました。

一方、本県の財政は、今後も巨額の収支不足が続くことが見込まれることから、昨年、持続可能な財政構造の確立に向けた改革の目標、具体的な取り組みなどを掲げた「財政構造改革プラン」を取りまとめました。これまでの行財政改革の総仕上げとして、私が全責任を持って、この改革を成し遂げる覚悟です。

岡山県の明るい未来を切り開くため、財政構造改革に全力で取り組む中にもあっても、県民の生活を守り、向上させていくことを最優先に、第1の柱を「持続可能な財政構造の確立」、第2、第3、第4の柱を「新おかやま夢づくりプラン」の3つの基本戦略である「教育と人づくりの岡山」、「安全・安心の岡山」、「産業と交流の岡山」の3つの創造、第5の柱を「地方分権改革と道州制・中四国州の推進」とし、この「5つの柱」の下、選択と集中を徹底し、県民の皆様が将来に夢と希望を持ち続けることができるよう施策を着実に進めてまいります。

その中で、私たちの一番身近な問題である消費生活におきましても、国の消費者庁設置及び関連法案等の動向を見極めながら、県民一人ひとりが安全で安心な消費生活を実現できますよう、被害の撲滅・救済や悪質事業者の指導・取締りに取り組んでまいります。

折しも、今年、岡山市が政令指定都市へ移行します。県都である岡山市の政令市移行は、地方分権推進の観点からも意義深く、中四国の拠点としてグローバルな発展を目指す本県にとって大変喜ばしいことです。

引き続き、県民の皆様の力強いご支援、ご協力を願いいたしますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

新年の

The greeting of the new year 2009

岡山県議会議長・



岡山県議会議長
古山泰生

新年あけましておめでとうございます。生活協同組合員の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から環境、福祉等、各種分野に幅広く活動され、県民福祉の向上に多大なご尽力を賜っているところであります。深く敬意を表します。

元日の朝は、凜とした空気に身も心も引き締まり、いつの時代も人々は、新しい年への期待と希望で心を満たし、一年、また一年と時間を積み重ねてきました。そうした人々が築き上げてきた岡山県の歴史や文化、育んできた風土というものをしっかりと守りながら、195万県民の皆様の幸せと夢の実現のため、新年にあたりその決意を新たに、県政の課題に邁進してまいります。

昨年は、世界同時不況の様相を見せる負の連鎖が続きました。岡山県でも財政の立て直しが待ったなしの課題となっています。

私は、こういう時期であればこそ、確かに将来展望と搖るぎない信念を持って、岡山県づくりを愚直一徹に進めることが大事だと考えています。

県民の皆様の幸せ実現のためには、安全・安心な社会づくりが欠かせません。財政構造改革プランの中でも、警察官の増員等治安の充実には意を尽くしていますし、障害者や子育て支援、医師不足の解決に向けての施策などはしっかりと取り組んでい

きます。

また、それを支えるためには、産業を盛り上げて、財源を確保していくことが大切です。岡山県の拠点性を生かした県内産業の振興や企業誘致を積極的に進めます。

昨年の明るい話題として、ノーベル賞の自然科学（物理学）の分野で、小林誠、益川敏英、南部陽一郎の三先生が同時受賞の栄に浴されるという快挙がありました。とりわけ岡山光量子科学研究所の顧問に小林誠氏が就任をされていたことは、岡山県民にとって大変光栄なことであり、今後とも科学技術の振興に力を注いでいきます。

古くから「人生朝露、文化千秋」と言われますが、岡山での国民文化祭の開催まで残り1年10か月となりました。県民の皆様の豊かなもてなしとともに、岡山県の文化や歴史の魅力を全国の人に知ってもらうため、万全の準備を進めます。

また、本年4月1日から岡山市が全国で18番目の政令指定都市に移行されます。政令市に移行することによって、岡山市の都市格とともにそのイメージが上がることや、中四国地方での拠点性が飛躍的に高まるものと大いに期待しており、全面的に協力していきたいと思っています。

県政運営の舵取りが難しい時代であればこそ、県議会の役割はより重いものがあります。県政上の課題について、県民を代表する県議会が、その具体的な方向性について厳しい判断を迫られる局面が増えていています。県民の福祉向上のため、議会の政策立案機能を向上させ、県民の立場に立った県議会の機能の充実・強化、広く県民に向けた情報公開の推進、さらに審議の活性化について積極的に取り組んでいきます。

最後になりましたが、新しい年が、皆様方にとりまして幸多い充実した一年となりますように、併せて皆様方のご健勝を心からお祈りしまして、新年のご挨拶といたします。



ごあいさつ

会派代表のみなさま



自由民主党県議団
團長
小野泰弘

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方には、昭和35年の設立以来、地域社会に根ざした活動を積極的に展開され、事業内容も生活用品の供給をはじめ医療、共済など様々な分野へ広がり、最近では、介護保険をはじめとする福祉や環境問題、また、食の安全への取り組みにも多大なご貢献をいただいているところであり、深く敬意と感謝の念を表する次第です。

近年、全国で相次いで食品表示偽装が問題となり、また、架空請求や悪質な訪問販売等による消費者被害の発生も後を絶ちません。私たちの一番身近な問題である消費生活について、県民一人ひとりが安全で安心した生活を送ることができる社会を実現することは、

県民全ての願いであります。

本県の財政状況については、すでにご承知のとおり、昨年6月2日「同山県財政危機宣言」が発表されました。自由民主党岡山県議団としても、この難局への対応策を真剣に検討する必要があると考え「財政再建対策プロジェクト」を立ち上げ、歳出削減案について重点復活要望を行いました。このように大変厳しい状況ではありますが、学校教育の充実や産業の振興など、安全で安心な県民生活の環境づくりに全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様方のより一層のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

最後に、新しい年が皆様方にとりましてご多幸の一年となりますとともに岡山県生活協同組合連合会のますますのご発展と皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



民主・県民クラブ
議員團長
住吉良久

新年あけましておめでとうございます。皆様には清々しく新春をお迎えのことと存じます。

さて、昨年は2月の冷凍餃子事件に始まり、10月には事故米や輸入食品のメラミン混入事案等、県民の食への不安が増大する事件が後を絶たない状況がありました。

これらの不安を払拭し、食の安全・安心を確保するためには、生産から消費に至る全ての関係者が、食の重要性を認識し、県民、食品関連業者及び行政がそれぞれの立場で、食の安全・安心の確保に取り組んで行くことが重要であることは申し上げるまでもありません。

岡山県では、食の安全・安心の確保に関し、基本理念を定め、関係者の責務と役割を明らかにして、関係者の協働により施策を実施するため、平成18年度に「岡山県食の安全・安心の確保及び食育の推進に関する条例」を制定し、更に、各種施策を総合的かつ計画的に推進するた

めに、平成19年度に「岡山県食の安全・安心推進計画」を策定したところであります。

本年度は、保健所再編を行う予定であり、一層の食品行政の機能強化を図ることが重要であります。

今後とも、検査体制の強化など諸施策を着実に実施することにより、県民の食に対する信頼の確保及び安全・安心な食生活の実現を目指し努力してまいります。

最後になりますが、皆様にとって本年も幸多き年でありますことを心から祈念しご挨拶といたします。



岡山県議会会派代表のみなさま



公明党岡山県議団
團長
景山貢明

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては素晴らしい一年となられますようお祈り申し上げます。また旧年中は私どもも何かとお世話になりありがとうございました。

ご承知のように昨年来、世界的な金融の危機は、さまざまな面において影響を及ぼしています。わたしたちの生活の面では、たちまち「個人の消費」というものが変わりつつあると思います。よりしっかりととした、製品やサービスというものに対しての鋭い選別の目をみがいていかねばと思うのです。たとえば、インターネットを通して商品に関する情報をより多く入手するとか、ブログやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を通して、商品の評価をいち早く入手する等々…。

当然、企業の側も消費者を惹きつ

けるため、日常的に不断の努力をして、どのような厳しい景気後退の局面でも、創意工夫でピンチをチャンスに変える挑戦をされなくてはならない訳です。それぞれも最前線では、数円、数十円の単位で節約志向が強まっています。みんな、必死です。こうした中「家計の助けになる」と定額給付金が期待されるのは当然のことでしょう。政策的に時機を得ていると思います。マスコミ的に非難の声もありますが、形をかえた評価と私は思っています。企業も行政も、今一度、庶民の目線にたちかえって「必死」になって、世の中をきりひらいていこうではありませんか！



日本共産党県議団
團長
武田英夫

新年明けましておめでとうございます。

「変」…昨年を代表するこの漢字に、「新しい年は変化の年に」という願いを託している方は大勢おられると思います。政局絡みで明けた新しい年、アメリカがそれを成し遂げたように、日本でも「新しい変化の年」にすべくみなさんとともに力を尽くす決意です。

さて、昨年を代表する言葉は、もう一つあります。小林多喜二の「蟹工船」、マクドナルド店長の「名ばかり管理職」です。大事なことは、この言葉は決して「あきらめの言葉」ではないということです。ここ数年続いている「格差と貧困」を拡大する新自由主義（市場原理主義）の結果、多くの若者たちが夢を閉ざしながら、それに打ち勝つ運動に「立ち上がっている言葉」なのです。小説「蟹工船」の最後は「そして彼らは立ち上がった」で締めくくられて

おり、「名ばかり管理職」はマクドナルドの無法に対して、若者が裁判でたたかう中で生まれた言葉ではないでしょうか。

さて、昨年末から、カジノ資本主義という「バクチ経済」の破綻が世界中を覆いつくし、「派遣切り」など弱いものをさらに切り捨てる流れが日本中でも広がっていますが、新しい年は、その流れを断ち切る年にしなくてはなりません。

私は、それに打ち勝つ力が生協の皆さん方が進めておられる「非営利共同」の流れだと考えています。

私はその「非営利共同の理念」が、日本社会を分断してきた「新自由主義」の根を断ち切り、地域の共同社会の実現に大きく貢献されるよう願って新年のご挨拶といたします。

ごまいさつ



日本生活協同組合連合会
会長

山下俊史

新年おめでとうございます。

昨年は日本生協連コープ商品の重大中毒事故、原料・産地偽装が相次ぎ、その対応と信頼再形成に全国の生協が力を注ぐこととなった一年でした。そして、原油・穀物等の高騰による物価の上昇、金融危機と実体経済の悪化というくらしと生協経営にとっての深刻な環境変化の中、新年を迎えました。

世界では経済危機への対応が緊急課題となり、環境・資源、貧困・飢餓、テロ・平和などの問題も継続しています。国内では少子高齢化、医療・福祉や教育、消費者被害、商品やサービスの値上げ、食の不安などくらしを取り巻く問題が切実であり、生協の責任はさらに大きくなっています。組合員のふだんのくらしに役立つ生協として一丸となった改革が求められています。

特に食の安全・安心について、高まる消費者の意識に応え得る水準の品質・安全管理の仕組みの構築、組合員・社会とのコミュニケーション、

正確な情報提供などが社会的責任として生協に求められています。全国の生協は厳しい状況下、日々組合員と接し、品質管理の強化に努められました。しかしながら、日本生協連と全国の生協には厳しい意見が寄せられています。日本生協連は厳しく自省し、品質保証体系の再構築、事業連帯への物流・システム投資などにその力を結集し、生協への信頼を再び築きたいと考えます。

昨年は改正生協法が施行され、全国の生協では定款改定、地域に開かれた組織づくり、適切な事業エリア設定の検討など、組合員ニーズに応えるための改革に取り組まれています。改正生協法をふまえたさらなる契約者保護のため、昨年10月に設立された日本コープ共済生活協同組合連合会や、医療生協の全国連合会づくりなど、生協のあり方についての改革や議論が、組合員の利益、全国の生協の飛躍につながることを期待しています。

今年は、全国の生協で論議し、2010年以降の未来戦略となる「長期ビジョン」、第11次中計の策定を進めます。環境保全、食育、子育て支援、くらしのたすけあいなどの福祉活動や医療・福祉事業の連携、リスクアセスメントなど食の安全確保のための社会的な仕組みの定着・強化、消費者行政の一元化に向けた取り組みなど、実効性ある社会システムづくりに生協が力を発揮しなければなりません。自立した市民の協同による人間らしいくらしの創造と持続可能な社会を実現するため、全国生協の連帯のもと、事業と組織の改革を進めたいと存じます。

新年の

The greeting of the new year 2009

協同組合・友誼団



岡山県農業協同組合中央会
会長
村上進通



岡山県漁業協同組合連合会
代表理事長
奥野雄二

新年明けましておめでとうございます。岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆さんには、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、県内の農業を取り巻く状況は、担い手の減少や高齢化の進行、輸入農畜産物の増加に加え、生産資材の高騰で、厳しさを増しています。さらに、食の安全・安心に対する県民の意識も高まっています。

こうした中、JAグループ岡山では、県民に安定して食料を供給するという使命を全うするため、行政機関等との連携を強化し、安全で安心な農畜産物の生産はもとより、地産地消、食農教育、伝統野菜の生産振興、新規就農者の育成など、地域農業の活性化につながる取り組みを全力で進めています。また、生活福祉や環境保全、広報活動にも力を入れ、地域

岡山県生活協同組合連合会の会員、組合員のみなさん、新年明けましておめでとうございます。

平素は本県水産業の振興につきまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は我々漁業に携わる者にとって試練の年となりました。高騰を続ける燃油の価格が、昨年に入り投機マネーの流入等により急激に跳ね上がった結果、漁に出ても赤字になる事態に陥り、これまで漁業者自身が地道に続けていた自助努力の限界を超えてしまい、ついに7月15日の「全国一斉休漁」並びに「漁業経営危機突破全国漁民大会」に至ったことは、皆さんも記憶に新しいこと存じます。幸い、燃油価格については8月をピークに下がり続け、危機的状況は脱した感がありますが、依然として、漁場環境・資源の悪化、魚価安、高齢化・後継者不足等、漁業の抱える問題は山積したままです。

また、我々水産業界と直結する食品業界においても、一昨年に続き昨年も産地偽装事件が相次いで発覚し、消費者の食品に対する不信感が増大しております。

かつては水産物の輸出国であった我が国ですが、安価な輸入水産物に供給源をシフトしていった結果、今では水産物の自給率は56%にまで落ち込んでいます。その一方で、昨今の世界の食糧事情は、BSEや鳥インフルエンザの発生に端を発し安全で健康な水産

貢献にも尽くしています。

本県には、岡山米をはじめ、白桃やマスカット、ビオーネ、ナス、スイートピー、ジャージー牛乳、おかやま和牛と全国に誇る農畜産物があり、中国四国随一の農業県として確固たる地位を築いています。吉備の国おかやまの伝統の上に築かれてきたおかやまの農業を守り抜くことが、豊かなおかやまの田園を守り、自然環境を守ることにつながるものと考えます。

今年も、活力ある地域社会を築くため、皆さまと連携して協同組合活動を展開して参りますので、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年一年が皆さまにとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

物に関心が高まり、欧米や中国・インド等の巨大市場を抱える国々が水産物の買い付けに走り、今や日本は水産物を輸入したくとも輸入できない「買い負け現象」が現実に起きています。食の安心・安全、安価な農水産物を供給する上で、「地産地消」がクローズアップされる中、今一度、「地産地消」が持つ本来の意味、「地元の農水産物を地元で消費する」ことに真剣に取り組み、我が国の食料・食文化を守り、子供達に伝えていくことが、私たちの義務であり、使命であると考えます。

我々漁業者は、前述の様々な問題に対処すべく、様々な活動に取組んでいます。檍樹・漁場清掃等の環境保全活動、親子魚料理教室等の魚食普及活動、地引網・底曳網等の漁業体験学習、稚魚の放流・禁漁・網目拡大等の資源管理活動等、実に様々です。これらの活動の根本には、「漁業を後世に伝えたい」という思いが込められており、それには皆様の暖かい応援が不可欠であり、何よりの励みになります。

今後も我々漁業関係者一丸となって、一層の努力をもって取組んでいく所存ですので、皆様のご理解とご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この1年が、皆様方にとりよい年でありますよう祈念し、なお一層のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

体代表のみなさま



社岡山県労働者福祉協議会
会長
坪井 義範

新年あけましておめでとうございました。県生協連の皆様におかれましては益々御健勝のことと存じます。

さて、日本経済は米国発の金融危機が世界的に広がり経済は急激に悪化しています。その様な中で、雇用情勢は景気後退による「職の不安」が派遣など非正規雇用だけでなく、正社員にも迫っており、今後さらに悪化すると思われます。

一方、私たち労働者・生活者の実情は賃金の抑制・医療・社会保障の切り捨てにより一段と厳しさが増しています。

この様な社会環境にあるからこそ労福協活動は重要であります。

県生協連におかれましては、昨年は60年ぶりの生協法改正が行われ、生協法の趣旨に基づき利用者保護とコンプライアンスの強化が求められましたが、着実な対応がされたとお聞きさしていま

す。今後とも、相互扶助の精神でご発展することを念じています。県労福協としても、公益法人改革が昨年12月から施行され新たな対応が求められています。

「勤労者の総合生活支援サービス」体制の確立、「安全」「安心」な労働福祉事業として労金、全労済、生協連の有効活用を行い、勤労者の生活支援を一層充実するため更なるご尽力をお願い申し上げます。

最後に「NPO消費者ネットおかやま」をはじめ「食の安全・安心の確保」、地球環境にやさしい資源循環型社会・経済システムへの転換を目指す取り組みについても、生協連、諸団体と連携して県民運動へと強化していきましょう。会員の皆様が充実した生協活動を進められることを期待いたします。



岡山県婦人協議会
会長
水野 三重子

新年あけましておめでとうございます。岡山県生協連の皆様、お元気で新年をお迎えになったこととおろこび申しあげます。

2008年はアメリカ発の金融不況が世界中に不景気風を巻きおこし、日本もその影響を受けました。或いは中国製毒入りギョーザや汚染米の食品偽装事件は、食品に対する信頼感をゆるがせた年でもありました。更に高級官僚刺殺事件など全く理解し難い犯罪であり自己中心的な犯罪が多発している社会です。

私たちの国は貧しい国ではありません。それどころか経済的には世界第二位の豊かな国です。しかし、グローバル化が進む中で、国と国がお互いにかかわり合いながら、人類の幸せな未来を創造していくなければなりません。そのためには日本は大切な役割があると思います。それは世界の平和を守り、進めていく役割です。世界で唯一の被爆国だからです。原爆の恐ろしさを伝え、核廃絶を訴え、戦争の火種になるものは避け、全力をあげて平和を守る努力と責任を果すべきだとおもいます。

戦後60余年が経過し、戦争を知らない世代が増え、戦争は記憶の底

で風化しようとしています。

新しい年を迎えて改めて平和な日本、平和な世界、平和な地球を目指して私たちは手を取り合おうではありませんか。





●石井 正弘岡山県知事と懇談【2月14日（木） 岡山県庁 知事室】

懇談には、県生協連より、会長理事、副会長理事3人、女性理事3人が出席しました。



↑福祉事業も子育て支援もいっそう大切に…と

話題は、中国産冷凍餃子問題、生協法の改正で県域規制の解除・員外利用範囲が広がったこと、消費者団体訴訟制度施行を受けて消費者ネットおかやまが発足したこと、会員生協で子育てひろばや福祉事業が活発に行われていること、医療制度、医師・看護師不足の問題、消費者被害調査の結果などの紹介がありました。

石井知事からは、生協の福祉事業や子育て支援活動を評価された上で、勤務医の状況・産科小児科医も大変であることは承知している。医師の待遇改善など国への要請・提案を行い、現場の声を反映させていきたい。消費者行政において広報充実の必要性は良く分かったので対応させていただく。

などと述べられました。

●県民生活課との定期懇談会【2月14日（木） 岡山県庁8階会議室】

岡山県より、県民生活課 松尾光義課長ほか3人のご出席、県生協連からは、役員など14人が出席、会員生協の取り組み状況の報告と「県への要望書」に対する回答を中心に質疑、意見交換を行いました。

回答の中からおもな項目

- ①相談窓口を設置している岡山・津山・倉敷市以外の市町村でも、相談員の派遣、研修など支援したい。
- ②BSE全頭検査は20年度も継続する。
- ③協定締結団体との緊急物資の点検は毎年実施している。
また、災害訓練については実践的な訓練に努めたい。
- ④災害時の通信手段は、市町村を結ぶ強い通信網とともに、民間との通信は優先電話の指定を受けるなど通信確保にあたっている。
県民への伝達はHP、携帯などへのメール配信している。
- ⑤レジ袋削減に向け、おかやまエコ事業所小売店101店舗にマイバッグ推進中ステッカーを掲示。
- ⑥後期高齢者医療制度について、県としては新制度が適切に運用されるよう、広域連合、市町村に助言等を行っていきたい。
- ⑦産科については、県の対策協議会に産科医療対策部会を設置、産科医の確保対策を検討中。
小児救急については、県下5病院を指定、県北等での研修、夜間受付け体制を整えている。
- ⑧食料自給率の向上では、食育の推進と連携させ、米中心の日本型食生活の推進、学校給食における地場産農産物の利用促進などに努めたい。



↑県生協連 安場会長理事（左）と挨拶をされる松尾県民生活課長（右）



懇談会の様子！

●岡山県協同組合連絡協議会交流会【7月4日（金） オルガホール】

国際協同組合デーを記念して県内の3協同組合の役職員と県農林水産部職員など48名の参加で行われました。

村上 進通協議会会长（JA岡山中央会会長）の開会挨拶（写真右）について、県農林水産部の藤井 伸次長よりご挨拶をいただきました。

基調講演では、三原市立小坂小学校校長の東 佐都子さんから「自給自足の体験が育むもの」と題してお話をうかがいました。

小学中・高学年の生徒が、給食の素材づくりを自分たちで相談し、悩みながら、土づくりから栽培・収穫といった行動する様を、生徒たちとの、また同僚の先生たちとのさまざまな葛藤を経ながら、優しくも厳しいいまざしをもって接していく過程が“熱く”“ドラマチック”に語られました。

講演の後の交流会では、それぞれ感想を出し合いました。



↑子どもたちを突き放すことも…講演中の東 校長

協同組合と情報交換



●岡山県議会議員のみなさまと懇談会の開催【12月5日（金）】

20回目となった懇談会は、12月県議会代表質問二日目の午後4時よりおこなわれました。テーマは「くらしに安全・安心を！」

安場 靖県生協連会長理事より、「懇談会のこの10年は、主に食の安全や環境、消費者の権利に関する法律や条例の制定にかかわる取り組みがすすめられてきた。その間県議会・議員のみなさまには、運動の趣旨を理解していただき、適切な指導で画期的な成果を得ることができた。今後、県民が安心してくらせるためには、なお、多くの課題があるが、いっそのご支援ご指導をお願いしたい」などと挨拶がありました。

ご出席の議員からは自己紹介を兼ねてご挨拶があり、過去の懇談会で印象に残ることや生協への期待等が述べられました。



†出席された県議会議員9人（前列）のみなさまと岡山県生協連の役員



†開会あいさつする安場会長理事



†発言する三橋理事長

懇談会 ご出席の議員

お名前	所 属	お名前	所 属	お名前	所 属
蜂谷弘美	自・生環委長	横田えつこ	民・ク生環委	武田 英夫	共・県議団長
中塙 周一	自・副委員長	高原 俊彦	民・ク生環委	森脇 久紀	共・生環委員
小田 圭一	自・生環委員	景山 貢明	公・県議団長	福田 通雅	無・生環委員

会員生協からは、生協の概要と日々の活動内容、議会・議員さんへの要望などが出され、医療分野では、医療制度・介護事業と経営問題での悩み、職員の雇用の環境整備の必要性について。購買分野からは、地産地消の促進、安定的な食品の確保、組合員のふれあい活動などについて報告がありました。

つづいて、県生協連とおかやまコープより話題提供がありました。

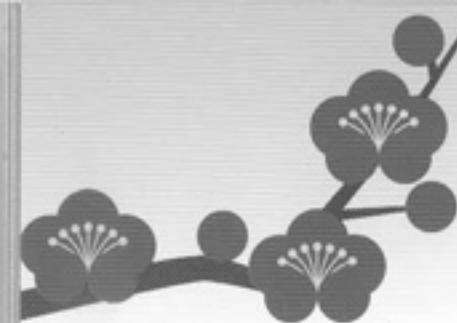
安場県連会長から、すでに政府より出されている「生活安心プロジェクト」を受けて、「消費者庁関連法案と地方消費者行政充実に関する」国の予算措置を含む

構想が具体化されつつあることについて。三橋おかやまコープ理事長から、冷凍餃子問題からカップ麺の「移り香」問題にいたる食の安全に関する生協やメーカー等の対応経過と対策、日本生協連の「品質保証体系の再構築」などについて、発言がありました。



議員さんからは、「消費者ネットおかやま」の活動状況、県の消費者相談業務・体制の充実に向けて、食品の安全・安心と安定的食料の確保の関係、海外との交流活動の効果、コープ商品（PB）と一般商品（NB）の同一メーカーで製造される場合の基準、海外（中国等）で製造委託することの意義、消費者団体にとっての情報収集のあり方、介護保険制度と介護報酬をめぐる問題や要望することは何かなどの質問が出され、相互活発なやり取りで、有益な情報交換の場となりました。

組合員・職員・役



●県連・単協役員研修交流会を開催【1月9日（水）オルガホール 参加者は講演会に57名】

安場 錆会長理事の間会挨拶につづいて、岡山県生活環境部県民生活課総括参事の中田 行一氏に来賓としてご挨拶をいただきました。講演は、まず、岡山大学資源生物科学研究所教授、(財)おかやま環境ネットワーク理事長の青山 眞先生に「IPCC報告に学ぶ」～健康な地球をいつまでも～と題して講話をいただきました。



中田総括収事よりご拝讀

講演中の青山 勲先生↑

日本生協連山下俊史会長↑

今日の地球温暖化をもたらしている原因と影響、問題の克服に向けて、とりわけ行政・企業の役割と国民一人ひとりの自覚と責任をどのように果たしていくかなどについて、国連IPCC報告に基づきながらのお話し。

後半は、日本生協連山下 優史会長より「日本の生協のこれから」について、講演をいただきました。

●組合員活動交流集会 [1月29日(火) オルガホール]

10会員生協より、253名の参加がありました。



村田由紀子先生　岡山井も頭所に！

講師には、村中由紀子さん（山陽学園短期大学幼児教育学科教授）を迎えて、「成長しつづける子どもたちへ～学校・友人・家庭を考える～」と題して、講演をしていただきました。

また、県社会福祉協議会職員の林 武文さんには、「県内の子育て支援活動の現状」についてお話をいたしました。

林 武文さんの講演⇒



3つの金属生協からは、日頃の子育て支援活動の取り組みの発表がされました。



三井造船生協…子育てひろば↑



おかやまコープ…手をつなぐ「子育てひろば」↑

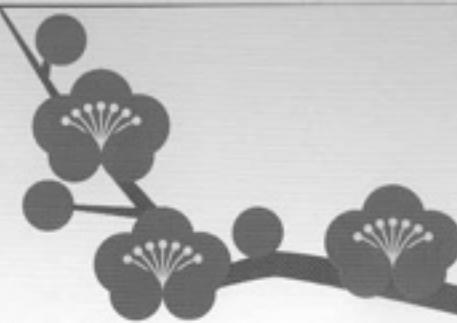


岡山医療生協…子育て支援↑

124人の方々から寄せられた感想から

- ・講演も活動報告も「わかりやすく、ユーモアに富んでいて楽しかった」
- ・「今の自分の子育てに、今すぐほしかったステキなお話しでした…この出会いに感謝してやみません」
- ・「母親は、子どもを飲み込むほどの愛情をもっている。人からもらっていないものは、人にはあげられない。
という言葉が心に残った」
- ・「子育てはもう終わったが…孫の成長に役立つばあちゃんになりたいなあと思っている」
- ・「妻は出産のため里帰り、お話しを聞いて”母親”の心理状態の変化を学んだ、…妻にとって優しい夫であるよう
工夫してみたい」 大勢の方から感動が伝わり、大変好評でした。

員が交流し、学び



●第27回岡山県民平和のつどいが開催【7月5日（土）オルガホール】

今年の平和のつどいは、「核兵器のない世界を！平和を愛する心は国境を越えて」をテーマに開催されました。岡山大うたう会「みみんこ」による歌と踊りでオープニング。県婦人協議会水野会長の挨拶、被爆者会の挨拶とつづき、ゲストの竹峰誠一郎さん（早稲田大学大学院生、国際関係学、平和研究専門）の講演が行われました。



↑オープニング 「みみんこ」



↑県婦協 水野会長の挨拶



↑岡山市被爆者会のみなさん



↑うたう 岡山合唱団

竹峰さんは「知らない眞実～見えない核の脅威」と題して、「マーシャル諸島の現地に暮らす人々の複雑な思いを過去・現在を分析され、眞実の探求と伝承を説かれ、参加者に深い感銘を残していました。

参加者からは、「ビキニを伝えていこうとしている人がいるんだ～こんな若い方が…これからも伝えていって欲しい。思い出したことがたくさんあったし、知らなかったこともある」「映像で見るマーシャル諸島は、とてもきれいでした。見えない核といわれていましたが、本当にその通りで、見えていないかくされている部分をしっかり見ていかなくてはと感じました」などの感想が寄せられました。



↑講演中の竹峰さん

竹本成徳さん（コーブこうべ理事長。日本生協連会長歴任。現日本ユニセフ協会兵庫県支部会長）（下写真）は「最後のトマト～ヒロシマを、私自身のことば」で～と題して、ご自身の被爆体験を通して、「平和をつくることの大切さ」を熱く語られました。



被爆者会の方からは、「8月6日夜のことを思いおこさせ身のひきしまる思いがした。私と4年の年齢差、中学生の犠牲者も多数出会いましたが、一人ひとり本当にご苦労の中を生きのびられたこと感動の連続でした。お若くお元気な間に可能な限り各地でご講演いただけることを、特に日本の若い人達にお願い出来ることをただただお祈りしています」、ほかにも、「被爆後の逃げまどう道筋を克明に示しながらのビデオは、今までのどんな話

よりもわかりやすく衝撃的でした。この時の体験を生協運動に活かしてくださいだとありがとうございました」「胸をうたれました」「心にしみました平和は“作り上げるもの”忘れてはならないと思いました」等々の感想が寄せられました。今回の「平和のつどい」は、お二人の講演を通して、戦争体験者も、戦中・戦後生まれの人たちも、あらためて平和への決意を確認し合う貴重な機会となりました。

●「環境問題」で県連医療部会の組合員活動交流集会【10月24日（金）くらしき医療生協会館】

岡山医療、倉敷医療、津山医療の3生協から組合員・非常勤役員など50名が参加して行なわれました。

「えっ!こんなにもCO₂が?～フードマイレージとは～」と題して、みずしま財団の白神 加奈子さんがワークショップ方式での講演。食料の生産地から食卓までの環境負荷の影響や普段の私たちの買い物行動を「フードマイレージ」を切り口に考えるお話しに、参加者は一様に感嘆し、地産地消の取り組みが地球温暖化防止にもつながることを学びました。講演の後は、3医療生協より環境活動の報告がされました。



↑白神さんと会場風景





中四国地連・岡山県生協連 コープぼうさい塾

約60人が参加して

わがまち減災・Mapシミュレーションを開催

11月11日（火）、中四国地連の7県連、12会員生協より組合員、職員などが参加。ちばコープの水島 重光さんの指導で減災・Mapシミュレーションを行いました。

岡山市西学区を災害仮想エリアとした7グループの演習は、病院や避難所、生協のお店やスーパー、一人暮らしのお年寄り宅、妊産婦宅などを赤や青などで地図上にマーク、避難経路を確認するなどを学びました。

「ぼうさい塾」には、岡山県の危機管理課、岡山市の防災対策課からも参加、ご挨拶・助言等をいただきました。また、広島市安佐南区で自主防災活動を行なっている同連合会長の原田 照美氏より報告もいただきました。

参加者からは、「大変参考になった」「地域で連携して取り組むことの必要性、大切さを改めて認識した」「今日の経験を地元に帰って活かしていきたい」などの感想が寄せられ、県・市行政からも励ましの言葉をいただいて、次につながる有益な「ぼうさい塾」となりました。



↑ファシリテーターの水島さん



↑大地県危機管理課参事のご挨拶

●児島湖流域清掃大作戦（岡山県主催）に参加しました

9月7日（日）朝7時30分から、地域や各種団体から多くの人たちが参加して、児島湖及び流域河川を中心に環境保全清掃大作戦が行われました。

県内の会員生協からも、おかやまコープの職員が36名、三井造船生協の家庭会環境委員10名が参加し、川床の汚泥の除去、沿道の雑草の刈り取り、空き缶・プラスチック類などのゴミを回収しました。



↑写真は三井造船生協提供

●第24回中四国生協・行政合同会議が9月2日（火）松山市で開催

「住みよい地域社会づくりにむけて～食、環境、消費者行政…」をテーマに、厚生労働省、9県の行政担当者、生協関係者合わせて68名が参加して行われました。

厚労省、日本生協連から挨拶と報告があり、その後、各県行政から生協への意見・期待と要望事項について報告がありました。岡山県からは、消費生活基本計画に基づく県民運動の推進、条例に基づく指導や悪質商法の取締り、無料法律相談会など多重債務者対策の実施、消費生活センターの取り組みなどについて報告がされました。

また、「日本生協連の品質保証体系の抜本的強化策について」、愛媛県より「愛」あるブランド商品について報告のあと、「消費者ネットおかやまの設立」、「CSネットにおける品質保証のとりくみ」、「店舗事業における地産地消の取り組みについて」それぞれ報告がありました。

会は、次回開催県の山口県生協連より挨拶があり、終了しました。





岡山県生協連は 岡山県に「要望書」を提出しています

岡山県生協連合会は、10月16日(木)、県に「要望書」を提出しました。要望は、生協の育成・消費者行政、食の安全・食育、災害対策、環境対策、保健・医療・福祉・介護・少子化対策、地産地消運動の分野を中心に24項目です。

回答は、2月に予定される生活環境部との懇談会でいただくことにしています。



「要望書」を手渡す安場県生協連会長(右)、左は三宅 進 生活環境部参与

要望内容の要旨

1. 生協の育成・強化について

消費生活協同組合運営指導委託料について、「継続」を要望します。

2. 消費者行政について

消費者行政の一元化と地方の消費者行政充実・強化の方向に沿って、県の施策の実行を期待します。

- ①消費者行政部門に司令塔的機能と人員・財政面の充実。
- ②市町村の消費生活相談窓口業務の充実、相談員の待遇改善など。
- ③特定商取引法、景品表示法、消費生活条例等に基づく取締りを行う上での人材や予算の確保などの充実。
- ④消費生活基本計画の検証・評価・監視の実施と必要な見直し。
- ⑤「消費者団体」への情報提供とそのためのルールづくり。
- ⑥消費者啓発・教育に関する県独自の「啓発システム」の充実。
- ⑦「消費生活懇談会」は少なくとも半年に1回程度の定例開催を。

3. 食の安全・食育について

県のこの間の食の安全・食育に関する「条例」の制定や「推進計画」の策定」及びその実行・具体化に敬意を表します。

- ①施策実行後の進捗・結果を逐次公表、リスクコミュニケーションの強化。
- ②食品“テロ”などに対する具体的な施策検討を。
- ③BSEスクリーニング検査の継続。
- ④健康食品等の監視、消費者にとって分かりやすい適正表示に関する指導の強化を。

4. 災害対策について

岡山流通情報懇話会との「災害時物資協定」の締結、生協の「防災・減災セミナー」等へのご指導・ご支援に感謝します。

大災害発災時における民間との防災システムの連携を緊密に。新型インフルエンザ感染に関する防災、設備等の環境整備対策を。

5. 環境対策について

- ①「レジ袋無料配布取り止めに関する協定」締結を、全県下対象に。
- ②マイバッグ運動等の事業評価結果の公表と効果確認を。

6. 保健・医療・福祉・介護・少子化対策について

- ①政府管掌健康保険の県移行で保険料値上がりにならないように。
- ②後期高齢者医療制度の中止・撤回を国に要請を。
- ③入院時食事療養費負担金への助成対象を、重度身体障害者・乳幼児など公費減免の対象者へも枠を広げてください。
- ④障害者自立支援法に関するすべての利用者負担を、本人の応能負担にするよう国に働きかけてください。
- ⑤ヘルパー等への待遇改善と、低所得利用者の負担増とならぬよう国に要請を。
- ⑥産科、小児救急などの体制の整備・充実を。

7. 産消提携、地産地消運動について

- ①穀物飼料などの高騰による畜産・酪農生産者の経営、財政支援について、国への支援措置の要請を。
- ②県としても食料自給率の目標値をかけて、実効性ある具体的な施策を求めます。

8. その他

県所管の公共的料金について、県民にスライド転嫁しないよう要望します。

不当勧誘、貸衣装・賃貸等不当契約、多重債務、建物・設計問題など、トラブルでお困りの方は

岡山県消費生活センター ☎700-0807 岡山市南方2-13-1 きらめきプラザ5階 電086-226-0999

消費生活相談の受付け…火～日(祝日、年末年始を除く)(月曜日休み)9:00～12:00 12:45～17:00(津山分室電0868-23-1247)

へご一報ください。



・岡山県消団連の取り組み・行事から・

●消費者月間記念学習講演会【6月7日(土)13:00~15:00 きらめきプラザ】

月間学

岡山県消費団体連絡協議会



↑開会挨拶をされる藤原 忍さん

月間学

岡山県消費団体連絡協議会



↑県内の相談事例の特徴について…佐藤さん



↑騙されやすい人…景品をもらうと…つい

のような情報こそマスコミがとりあげ、発信していくべきではないでしょうか?靈能者をもてはやすようなマスコミの態度をかえられるような活動も併せてすすめていけたらよいとあらためて思いました

講演会は、岡山県消費者団体連絡協議会が主催し、消費者ネットおかやまの共催で開催されました。

テーマ 「消費者被害の未然・拡大防止と消費者団体の役割」

参加者は、消費者団体・生協など16団体、101名

県消団連代表幹事 藤原 忍さん(JA県女性組織協議会会長)が開会の挨拶をされ、「消費者被害が絶えないなかで『賢い消費者』になることが求められている。そのためにも消費者啓発の取り組みは大切、今日の学習講演会の意義は深い、みんなで学んでいきたい。」と述べられました。

講演Ⅰ「県内の最近の被害・相談事例の特徴について」

講師；佐藤 秀樹さん(岡山県消費生活センター所長)

佐藤 秀樹さんのお話 一寄せられた感想から一

「消費者からの相談が多いのにびっくりしました。相談内容にも驚きます。」「県消費生活センターとして、消費者被害に対して未然防止に取り組まれている様子がよくわかり、心強く思いました。」

講演Ⅱ「人はなぜ、だまされるのか～消費者心理とその防止～」

講師；西田 公昭さん(静岡県立大学准教授、社会心理学)

西田 公昭さんのお話

一寄せられた感想から一

「まさに私向けのテーマでした」「自分の弱点について考えることができ良かった」「だましのテクニックが巧妙になって行く中で、誰もがその被害者になる可能性があることを実感、今日のお話



●特定非営利活動法人 消費者ネットおかやま設立総会【6月7日(土)15:35~きらめきプラザ】

消費者月間記念学習講演会の後、「特定非営利活動法人 消費者ネットおかやま」の設立総会が開催されました。

任意団体「消費者ネットおかやま」が発足して、ちょうど一年目に当ります。

通常総会終了後行われた特定非営利活動法人消費者ネットおかやま設立総会では、93名の出席表決数(うち書面表決者数43名)のもと、以下の議事提案があり、いずれも全会一致により可決されました。

- (1) 設立趣旨に関する件
- (2) 定款に関する件
- (3) 平成20年度及び平成21年度の事業計画並びに収支予算について
- (4) 役員に関する件及び設立代表者選任の件
- (5) 確認書について





・・岡山県消団連の取り組み・行事から・・

●岡山県消団連が第22回岡山県消費者大会を開催 [10月31日(金)10:00~12:35 オルガホール]

参加者は15団体228人

大会では、県消団連の安場 靖代表幹事の挨拶について、来賓の岡山県農業協同組合連合会中央会の宮本 芳郎専務理事よりご挨拶をいただきました。



↑開会のあいさつ



↑来賓のご挨拶

記念講演は、「日本の食料自給率は上げられるか」

～消費者と生産者の絆の強化～ と題して、
鈴木 宣弘さん（東京大学教授）のお話。

後半は 三井造船生協(地場野菜の供給拡大)、おかやま
コープ(家庭ができる野菜づくり)、県JA女性協
議会(生産者の主張～寸劇デモ行進)の活動報告が
行なわれました。



↑講演中の鈴木 宣弘先生

「日本の食料自給率は
上げられるか」

「消費者と生産者の絆の強化」

講師
東京大学教授
鈴木 宣弘
さん

鈴木先生は、WTO農業協定に係わるルール・交渉の限界、日本の食料市場の閉鎖性と農業過剰保護論の問題、欧米輸出国の手厚い国内農業支援策、国土環境や健康への影響などについて詳しく解説されました。今後は、経済効率だけの貿易自由化ではなく、国家安全保障、地域社会、環境・健康への影響などを含めた農業の価値を消費者に知ってもらうことが生産者支援の国民的合意の力をぎっている。

長期的に失うものの大きさも総合的に考えて将来の方向を見出すべきで、生産者と消費者の絆を強めていくことが急務と述べられ、スイス等諸外国の現状を繰り込みながら、消費者の購買行動を見直し、農業補助金を含む予算執行上の問題も検討されるべきだとも問題提起されました。

充実した資料と熱のこもったお話しに、参加者からは、「時宜に適い、普段の報道では知り得ないことがわかり勉強になった」「目からウロコが落ちる思い」「資料を活かしたい」などの感想があった反面、質疑時間をもっととって欲しかったなど運営上のいくつかの指摘もありました。

大会は、①金融危機から家計や中小企業・協同組合の経営を守る万全の措置、

- ②食料自給率を高めるための生産者・流通業者・消費者の協働と実効性ある施策、
- ③「消費者庁関連三法案」の責の消費者保護のための法制化、を国にもとめることを趣旨とする岡山県消費者大会宣言が読み上げられ、最後に県消団連の藤原 忍代表幹事(JA県女性協会会長)の閉会の挨拶で締めくくりました。



↑熱心に耳を傾ける228名の参加者



大会宣言を読み上げる小阪田さん



三井生協の報告



おかやまコープの報告



JA女性協の寸劇



閉会のあいさつ

「NPO消費者ネットおかやま」のご紹介

「NPO消費者ネットおかやま」は、会員加入を呼びかけています。(年会費1口：個人3千円、団体1万円)

加入会員は、11月10日現在で、個人会員57人(75口)、団体会員11団体(67口)となりました。

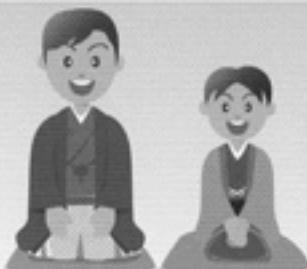
消費者被害はあとを絶たず、悪質業者の「不当な勧誘行為」や「不当な契約条項」などのトラブルに接している方は増えています。

身近なところでの情報を寄せください(TEL 086-221-4302)。会員でなくても情報を提供ください。

「消費者ネットおかやま」は、消費者被害を未然に防ぐために、例えば、消費者の視点で「正当な約款」を作ろうと努力される事業者のみなさまのご相談にもお応えします。

ところで…

消費者ネットおかやまが申請していた「特定非営利活動法人」は、10月16日付で岡山県より設立認証の通知があり、11月6日に登記完了、NPO法人として成立しました。 通称；「NPO消費者ネットおかやま」



会員生協

おかやまコープ

「教育ファーム推進事業」で農業体験

おかやまコープでは、08年度、2つの地域が農林水産省補助事業「教育ファーム推進事業」に取り組みました。岡山西地域（岡山市内）では、JA岡山有機無農薬野菜生産組合の協力で白菜と大根の、土作りから種蒔き、収穫までの農業体験をしました。美作地域（県北部）では、JAまにわ大根部会協議会の協力で、地元「蒜山こだわり大根」の間引きや収穫体験をしました。組合員が家族ぐるみで体験し、草とりや間引きなど初めての野菜づくりを体験し、11月には、りっぱな大根や白菜が収穫できました。収穫した野菜を使った料理を作りおいしくいただき、「農業の大変さ」や「収穫の喜び」「たべることの大切さ」などを実感しました。



コープ東川原、リニューアルオープン

11月18日にコープ東川原がリニューアルオープンし、より広く、より充実した品揃えとなりました。



来店された組合員さんからは、「広くなって買やすい」「明るいきれいなお店になった」「産直商品の品揃えが増えてお買い物が楽しい」など、うれしい声をたくさんいただいています。広々とした空間の明るい店舗に生まれ変わったコープ東川原を、引き続き、「私たちのお店」として、末永く利用していただきたいと思います。



津山医療生協

12月6日、津山市の社協の方を招いて認知症サポーターの養成講座が行われました。

講座は法人用として開かれ職員、組合員24名が参加しました。

前半は認知症についての学習、後半はグループに分かれ身近な例や対応について話し合い認識を深めました。

修了者にはオレンジリングが渡されました。



岡山医療生協

「岡山空襲」の真実を学ぶ「平和のつどい」（12月6日参加者94人）

を岡山空襲資料センター代表の日笠俊男さんを講師に迎え行いました。

長年の調査から明らかになった事実を聞き、参加者からは「今まで気になっていたことがすっきりした」などの感想が寄せられました。



厚生労働省が進める

「認知症サポーター100万人」養成。

全国の医療生協では、このうち1万人の養成をめざしています。

岡山医療生協でも、支部で身近なところでの開催が始まっています。



昨年は6教室で200人を超える方が終了しました。

修了者にはオレンジリングがプレゼントされます。



県労済生協

岡山県労働者共済生活協同組合(全労済岡山県本部)では、組合員のムリ・ムダのない最適な保障構築の取り組みとして**生活保障設計運動**を展開しています。

この運動の一環として保障設計セミナーを県下各地で開催しました。(写真右)



倉敷医療生協

高梁市で医療生協の3支部が誕生

2008年10月、高梁市に医療生協高梁東支部、西支部、南支部の3支部が誕生しました。従来の高梁支部が3分割したものです。組合員数が3千人近くになったため、6月から「地域が見える支部」「組合員の顔が見える支部」づくりをすすめてきました。

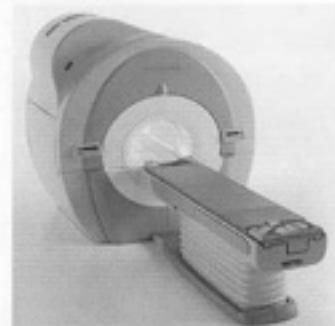
日本生協連医療部会情報誌comcom新年号に、その内容が4頁にわたって紹介されました。



水島協同病院が高性能のMRI（磁気共鳴断層撮影）導入

2009年1月から稼動します。

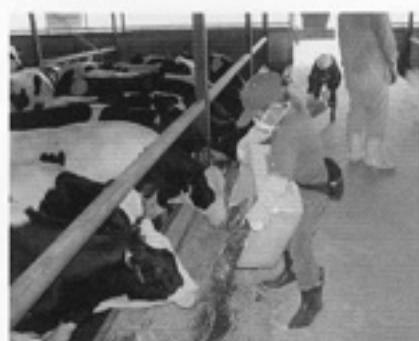
従来の機種より高磁場の機種であり、鮮明な画像が得られます。画像診断能力が飛躍的に向上し、小さながんの発見はもちろん早期の脳梗塞、心疾患の発見に威力を発揮します。



三井造船生協

組合員さんからのご要望にお応えするため、06年に立ち上げた通所介護施設「ひなたぼっこ田井」に加えて、今年2月に2軒目となる「ひなたぼっこ和田」を開設しました。

どちらの施設もご利用者から好評をいただいています。



グリーンコープ生協おかやま

子供の夏休み中の7月26日～27日に県内の肉牛生産者の牧場にて「ファームステイ」を実施しました。食の不安が叫ばれる中、農業体験を通じて、改めて農畜産業の大変さや大切さを知る機会となりました。



「組合員と生産者・メーカーが直接出会い、商品を通して相互理解と交流を深め、交流を通して、利用普及につなよう。」と、「グリーンコープ秋の試食会」をコンベックス岡山小展示場にて開催(写真左)、お取引先と産地の生産者においていただき、多数の来場者を迎える大盛況のうちに終了しました。また、食品ジャーナリストで「食品の裏側」著者の安部司さんを招いて講演会を同日開催しました。実演を交えながら楽しく、分かりやすい内容の講演会でした。



学校生協

税の学習会を岡山東税務署と合同開催しました！

第1回学習会 2008年10月17日（基礎学習）

第2回学習会 2008年12月 5日（PC実技指導）

2007年度末に退職された組合員を対象にご案内し、

第1回参加者数80名。

第2回参加者数45名と多くの皆さんにご参加いただき、

大好評でした。

岡山県生活協同組合連合会紹介



概況

1959年9月に創立総会を開催して設立された岡山県生協連は、当初17生協の参加でスタートしました。

現在、11の会員生協に、延べ71万余世帯の組合員が加入する県下最大の消費者組織になっています。

購買生協は地域、職域の7生協、医療生協は3生協、それに労済生協とで構成されています。

生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 安場 靖

会員数 11生協

会員総組合員数 712,998人 (2008.3.31)

会員総出資金 16,421,134千円 (同上)

会員総事業高 77,492,310千円 (同上)

設立登記年月日 1960年3月2日

役員数 (常勤理事) 1人

(非常勤理事) 12人

(非常勤監事) 3人

職員数 (定時) 1人

役員構成

会長理事	安場 靖	(常勤一員外)
副会長理事	木村高清	(岡山医療生協 専務理事)
副会長理事	中原 豊	(三井造船生協 理事長)
副会長理事	三橋幸夫	(おかやまコープ 理事長)
理事	和泉伸子	(倉敷医療生協 理事)
理事	岩木克明	(県労済生協 専務理事)
理事	佐々木正昭	(津山医療生協 専務理事)
理事	上甲啓一	(岡山大学生協 専務理事)
理事	田中俊正	(倉敷医療生協 常務理事)
理事	本田正一	(県学校生協 専務理事)
理事	水嶋康彦	(グリーンコープ生協 おかやま 専務理事)
理事	山内幸子	(三井造船生協 理事)
理事	吉田弘美	(おかやまコープ 理事)
監事	上村 昇	(岡山医療生協 常務理事)
監事	近藤清志	(おかやまコープ 常務理事)
監事	名合正壽	(本花滝生協 組合長)
顧問	吉永紀明	(おかやまコープ 常任顧問)

会員紹介 (設立期順)

岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長
岡本 和子
組合員数 17,102人
出資金 128,543千円
供給高 924,075千円
活動エリア 岡山県下、保・
幼・小・中・高校・
大学職域（県下全域）



設立登記年月日
1949年8月22日

役員数（常勤）1人（非常勤）12人（監事）3人

職員数（正規）8人（内2人出向）（パート）1人

概略

岡山県学校生活協同組合は、県下公私立の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等・大学、教育庁関係職場に勤務される方とその職場を退職された教職員を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和やくらしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

三井造船生活協同組合

代表者名 理事長
中原 豊
組合員数 24,871人
出資金 493,418千円
供給高 5,487,600千円
活動エリア 玉野市、岡山市、
倉敷市
職員数（正規）100人
（定時）96人



1950年11月に職域生協として設立。以来58年「人とひとつのつながりを大切にし、健康で心豊かなくらしの実現を目指します」の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗（玉野市内に5店舗）及び共同購入での供給事業や、葬祭事業、福祉介護事業、旅行業、共済事業など幅広く展開。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会（地域組合員組織）を中心として環境・福祉に積極的に取り組み、中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続30年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈（累計で1,536万円）など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。

～こういう生協をめざして～

本花滝生活協同組合

代表者名 組合長
名合 正壽
組合員数 94人
出資金 4,700千円
供給高 960千円
活動エリア 井原市芳井町
花滝地区



設立登記年月日
1950年6月18日
(生協法上の登記)

役員数（非常勤）7人
（監事）3人

職員数（正規）0人

概略

本組合は、元産業組合法と定款第一章第1条の目的に依り設立し爾後経営維持し大正12年2月本花滝利用組合に組織変更、昭和25年、本花滝生活協同組合に改組し現在に至っております。本組合は、協同相互の精神に基づき生活の文化的、経済的、改善を計ることを目的として活動しています。

岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長
浪尾 淑子
組合員数 55,165人
(08年11月末現在)
出資金 1,716,751千円
(08年11月末現在)
事業高 6,336,230千円
活動エリア 岡山県下一円
設立登記年月日 1952年10月21日
役員数（常勤）9人（非常勤）26人（監事）5人
職員数（正規）570人（定時）221人



1952年に設立された当生協は、現在組合員は55,000人、出資金が1億1千万円となりました。

事業所は、4つの診療所、2つの病院、9つの介護事業所、そして1つの認可保育園（医療生協の運営では唯一）で構成しています。これらのネットワークを活かし地域のみなさまの要望にお応えしています。1枚の診察券ですべての事業所で診察できることもその一つです。さらに、岡山中央福祉会と連携して医療・介護・福祉の充実につとめています。

昨年は、これまでの“3つの良心”を更に発展させ、“4つのこころ”（①「差額ベッド料」はいただきません ②「謝礼」や「付け届け」の心配はいりません ③人権を守る医療・介護をめざします ④保健・医療・福祉のネットワークで安心の対応をします。）を決め、これまでの活動をより豊かなものにしてきました。

本年は、高齢者住宅との連携を強め、新たな地域でデイサービス、ヘルパーステーションの事業展開をはじめます。助け合い・支え合いの明るいまちづくりの一翼を担う生協運動をしっかり進めています。

会員紹介 (設立期順)

倉敷医療生活協同組合

代表者名 理事長
杉山 信義
組合員数 58,671人
出資金 1,542,166千円
事業高 9,156,840千円
活動エリア 岡山県全域
設立登記年月日 1955年2月
役員数 (常勤) 11人
(非常勤) 19人 (監事) 5人
職員数 (正規) 755人 (定時) 370人
概略



倉敷医療生活協同組合は、センター病院の水島協同病院を中心に、全体で3病院、5つの医科診療所、7つの歯科診療所、3つの訪問看護ステーション、3つのヘルパーステーションに加え、老健施設、倉敷市の高齢者支援センター、助産院、認知症デイサービスなど多彩な機能を持った27の事業所を有して、医療・介護・福祉と、健康づくりのネットワークを展開してきました。さらに、家庭的な雰囲気の中で、安心して分娩できる施設として「さくらんぼ助産院」を2006年10月開設しました。

また、下記の理念を定め、地域と利用者・組合員・職員に対して、当組合の存在意義を分かりやすく示しています。

「私たちの思い」人が人として大切にされる社会を目指し/保健・医療・介護の事業と運動をとおして/様々な人たちと手をつなぎあい/平和とくらしを守り/健康で明るいまちをつくります。

地域医療を巡る状況は改めて言うまでもなく厳しいですが、平和で健康新くらしを願う地域住民の切実な思いを集めて、さらなる飛躍を期して全力をあげてまいります。

岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長
森本 栄
組合員数 220,992人
出資金 1,342,000千円
契約件数 473,083件
契約口数 50,860,307口
給付件数 23,654件
給付金総額 4,306,374万円
活動エリア 岡山県一円
設立登記年月日 1961年4月1日
役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 26人
職員数 29人
概略



岡山県労働者共済生活協同組合（全労済岡山県本部）は営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

岡山県労働者共済生活協同組合は本年5月に創立50周年を迎えます。50周年を機に「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を合い言葉として、組合員の皆様の「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動をおこなっています。特に、生活保障設計運動の推進に力を入れて活動を行っており、組合員の方にムリ、ムダのない保障を見つけるお手伝いとして「保障の見直しセミナー」や、「無料保障相談」などを開催し、多くの組合員の方々が参加しています。参加者の皆様からは、「公的年金、生命保障、医療保障の仕組みが理解できた」、「保障相談で加入している保障が適切かどうか理解できた」など家計の見直しにもなるアドバイスに共感をいただいている。今後も社会的役割を果たしながら、保障の生協としての理念に基づく事業活動を展開してまいります。

生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長
三橋 幸夫
組合員数 306,773世帯
出資金 11,058百万円
事業高 44,334百万円
活動エリア 岡山県一円
(定款エリア)
設立登記年月日 1956年6月13日
役員数 (常勤理事) 6人 (非常勤) 28人
(常勤監事) 1人 (監事) 5人
職員数 (正規) 481人 (定時) 2,021人
概略



おかやまコープは、岡山県内の4割に当たる30万世帯が加入する県下最大の消費者組織です。

共同購入と店舗での食品や日用品などを供給する購買事業を中心に行っています。

品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001を取得しています。また、商品トレーサビリティの取り組みや「食の安全総合政策」の策定など、安全・安心な商品の提供や産直事業、地産地消の活動をすすめています。

また、商品学習や産地交流などの商品活動やたべる・たいせつ活動、省エネ活動やリサイクル活動、マイバッグ運動などの環境の取り組み、核兵器と戦争のない世界をめざしての平和活動、ユニセフやAMDAへの支援をすすめる国際協力支援活動、「子育てひろば」などの子育て応援活動や組合員どうしで支え合う「コープくらしの助け合いの会」の活動など、多彩な組合員活動にも取り組んでいます。

関連会社のコープP&Sでは、旅行・飲食・フィットネス事業の他、葬祭や保険などの斡旋事業を行っています。

セイレイ工業岡山地区生活協同組合

代表者名 理事長
河内 俊幸
組合員数 416人
出資金 416千円
供給高 21,431千円
活動エリア 職域(工場内)
設立登記年月日 1965年1月25日
役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 10人
職員数 (正規) 1人 (定時) 0人
概略



当生協は新岡山港の近くの「ヤン坊マー坊」でおなじみのヤンマー農業機械の総合機会メーカー、セイレイ工業の敷地内で活動しています。

組合員数400名強と限られた範囲での活動であり、これから組合員の減少が予測される中、安定経営および、組合員の要望にそった活動が出来るよう一層の努力が問われています。

組合員は、夏は構内でセイレイ夏祭りを行い、地域住民の方々にも楽しんでもらっております。

一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン作戦も回を重ね、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

会員紹介 (設立期順)

津山医療生活協同組合

代表者名 理事長
中西 孝
組合員数 6,679人
出資金 83,452千円
事業高 294,532千円
活動エリア 定款区域
(主には津山市と
津山市周辺町村)



設立登記年月日
1980年8月12日

役員数 (常勤) 1人
(非常勤) 19人
(監事) 4人
職員数 (正規) 19人
(定時) 22人

概略

津山医療生活協同組合は、1980年8月設立以来、患者様・利用者様の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護にこころがけ、地域医療と働く人々の命と健康を守るために全力を尽くしています。又、津山医師会・自治体とも協力して地域の健康づくりをすすめています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わるもので、診療所・訪問看護ステーション・居宅介護支援(ケアプラン)事業所・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉(介護)のネットワークをひろげ、365日安心・安全の医療・介護サービスの充実と、組合員との協同による健康づくり・まちづくりを進めています。

グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長
坂口 陽子
組合員数 4,632人
出資金 65,050千円
供給高 599,838千円
(2008年
3月20日現在)
活動エリア 岡山市・倉敷市・
総社市及びその周辺地域



設立登記年月日
2003年8月13日

役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 9人 (監事) 3人
職員数 (正規) 12人 (契約) 4人 (定時) 8人
概略

グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べ物を求める、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに关心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。

「グリーンコープ」ではその商品を「いのちを育む食べもの」と考え、無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産品などをはじめとして、不要と思われる添加物を使わずにつくった加工品など、組合員自身の参加により開拓し供給しています。また、環境中で分解されやすい「せっけん」関連商品の企画や再利用できるびん容器(ビンリユース)の積極的な活用、プラスチック原料の総量を減らすため、回収した食品トレーを粉碎し、再度トレー原料の一部として使用していくなどの環境問題への取り組みもすすめています。

2008年は改めて「食の安全・安心」がさまざまに問われた年でした。また、下半期からは厳しい経済状況が続く中、組合員の暮らしを取り巻く不安はますます大きくなっています。今後とも組合員主権を尊重し、地域からの期待と信頼にこたえることができる生協を目指して参りたいと考えています。

岡山大学生活協同組合

代表者名 理事長
保田 立二
組合員数 15,304人
出資金 202,528千円
供給高 1,970,836千円
活動エリア 岡山大学津島・
鹿田キャンパス



設立登記年月日
1995年2月20日

役員数 (常勤) 1人
(非常勤) 28人
(監事) 4人
職員数 (正規) 18人
(定時) 110人

概略

岡山大学生活協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのマスカットユニオン・ビーチユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業など幅広い事業に取り組んでいます。

県生協連加盟単位生協名簿

会員生協名	住所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8238 岡山市住吉町2-38	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
本花園生活協同組合	〒714-2104 井原市芳井町花園2834-5	TEL 0866-73-0202
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市赤坂本町2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町13-1	TEL 086-448-6210 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市奉還町一丁目7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-0024 岡山市駅元町6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-8116
セイレイ工業岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市江並428	TEL 086-276-8115 FAX 086-276-9879
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福547-1	TEL 0868-28-3858 FAX 0868-28-3803
岡山大学生活協同組合	〒700-8530 岡山市津島中二丁目1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市下中野311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2552

協同組合のアイデンティティに関するICA声明

1995年9月23日ICA全体総会決定：マンチェスター

〈定義〉

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

〈価値〉

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、誠実、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

〈原則〉

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

第1原則…自発的で開かれた組合員制

協同組合は、自発的な組織である。協同組合は、性別による、あるいは社会的・人種的・政治的・宗教的な差別を行なわない。協同組合は、そのサービスを利用ることができ、組合員としての責任を受け入れる意志のある全ての人々に対して開かれている。

第2原則…組合員による民主的管理

協同組合は、その組合員により管理される民主的な組織である。組合員はその政策決定、意志決定に積極的に参加する。選出された代表として活動する男女は、組合員に責任を負う。単位協同組合では、組合員は(一人一票という)平等の議決権をもっている。他の段階の協同組合も、民主的方法によって組織される。

第3原則…組合員の経済的参加

組合員は、協同組合の資本に公平に拠出し、それを民主的に管理する。その資本の少なくとも一部は通常協同組合の共有財産とする。組合員は、組合員として払い込んだ出資金に対して、配当がある場合でも通常制限された率で受け取る。組合員は、剰余金を次の目的の何れか、または全てのために配分する。

第4原則…自治と自立

協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行なったり、外部から資本を調達する際には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自主性を保持する条件において行なう。

第5原則…教育、訓練および広報

協同組合は、組合員、選出された代表、マネジャー、職員がその発展に効果的に貢献できるように、教育訓練を実施する。協同組合は、一般の人々、特に若い人々やオピニオンリーダーに、協同組合運動の特質と利点について知らせる。

第6原則…協同組合間協同

協同組合は、ローカル、ナショナル、リージョナル、インターナショナルな組織を通じて協同することにより、組合員に最も効果的にサービスを提供し、協同組合運動を強化する。

第7原則…コミュニティへの関心

協同組合は、組合員によって承認された政策を通じてコミュニティの持続可能な発展のために活動する。